

---

# 忘れてはいけない

遊崎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

忘れてはいけない

### 【Nコード】

N9897J

### 【作者名】

遊崎

### 【あらすじ】

人は何か忘れてはいけないものがあるとき、他のものを、他のことを殺すのです。

西尾維新著、戯言シリーズに感化されている部分がありますので、わたくしの作品、西尾維新氏の作品に嫌悪感を抱かれる方にはブラウザバックを推奨します。

力を失い、掴んでいたものを離してしまったこの手。

かしゃん、からからから・・・

それが床を滑って行く。

苦しいものからは解放されるだろう、けれど。

忘れてはいけない、覚えておかなければ。

僕を愛してくれる人がいる、僕を必要としてくれる人がいること。

そんなことをうすばんやりとした頭で思考していたら、みぞおち鳩尾あたりを思い切り蹴られた。

でも、諦めるわけにはいかない。

忘れるわけにはいかない。

僕が死ねば、僕が愛している人の何人かはとても悲しむだろう。

僕が死ねば、僕が嫌悪する人の何人かはとても喜ぶだろう。

そんな訳には、いかない。

ずきずきする右腕に鞭打ち、僕は落としたものを拾う。

それは忘れてはいけないもの

「これで、終わらせる」

きっと僕が言っただろう、そんなことも満足に判別できないなんて、まったくどれだけ一方的に章魚たこなぐ殴りにされたことやら。

拾ったその照準をあいつに合わせ、<sup>ハンマ</sup>撃鉄を起こす。  
僕の持った銃が、あいつへと向く。

ばああああん

聞きなれた発砲音が、響く。

どさり、と何か重いものが着地する音がした。

何かなんて言うまでもなく、あいつの死体なただけだ。

さようなら。

僕はこれから愛する人たちの下へ帰る。

お前に帰る場所はない。

お前を殺して、僕は

f i n

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9897j/>

---

忘れてはいけない

2010年10月9日21時15分発行